JS研修
みずのわ

vol.48
2015

地方共同法人
日本下水道事業団 研修センター
Japan Sewage Works Agency

も　く　じ

みずのわ　４８号

◆　巻　頭　言

下水道事業の経営戦略とは・・・

日本下水道事業団　理事(研修・国際担当) 野村　充伸　*1*

◆　就任のご挨拶

今こそ JS 研修の活用を！

所　長　花輪　健二　*2*

◆　研修派遣団体のこえ

熊本市の下水道技術者育成と研修　岡本　吉弘　熊本市上下水道局 計画調整課長補佐　*3*

◆　教員 OB のこえ

研修教員としての思い出と研修を受講される方へのメッセージ　渡邉　克宏 (元助教授)　元　尼崎市下水道部長　*4*

研修センターOB としての思い出と近況報告　高橋　淳 (元准教授)　東京都下水道局計画調整部 技術開発課積算システム係長　*6*

◆　同窓会ニュース

宮山会 「宮山会」と私のつながり、そして新たな「わ」　阿部　真二　山形市環境部廃棄物施設課 施設整備係長　*7*

福岡県みずのわ会 「福岡みずのわ会」の活動報告　有働　健一郎　福岡市道路下水道局総務部 下水道経営企画課長　*8*

昭和 55 年度　工事監督管理・工事管理コース 「研修仲間 35 回目の集い」　畑田　正憲　日本下水道事業団 近畿・中国総合事務所長　*9*

◆　研修生のこえ

下水道ヒューマンネット　秋葉　潔成　佐世保市水道局事業部 下水道事業課　*11*

研修を振り返って　鈴木　学　古河市上下水道部下水道課 工務係　*13*

事業団研修を受講して　小林　知弘　さいたま市建設局北部 建設事務所下水道建設1課　*14*

研修に参加して　中河　幸也　伊勢市上下水道部 下水道施設管理課排水設備係　*15*

◆　平成２７年度研修実施計画　*16*

◆　研修センターのあゆみ　*18*

◆　編集後記　*19*

〈表紙の写真〉　さくら川を彩る桜並木

研修センター側を流れる荒川左岸排水路（通称：さくら川）沿いは約２キロにわたり桜並木があり、４月の満開シーズンは見事に咲き誇ります。

撮影地：埼玉県戸田市下笹目　　撮影者：研修センター専任講師　長澤 不二夫

『みずのわ』の名前の由来・・・

滑らかな水面に落とした一滴のしずくがつくる小さな輪が大きく広がる様から、研修生の輪が一人から全国へ、一都市から全国の都市へと大きなつながりが生まれるように、との期待を託したものです。

巻頭言

「下水道事業の経営戦略とは…」

日本下水道事業団　理事
野村　充伸

日頃は日本下水道事業団研修事業にご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。平成 26 年度は JS 運営補助金の皆減に伴って、研修の受講料の大幅な値上げを行ったにも関わらず、多くの受講生の皆様のご参加を頂き、重ねてお礼申し上げます。

＊　　＊　　＊

さて、下水道の世界でも「建設から維持管理（経営）の時代に」と言われて、久しくなります。事実、全国の下水道資産（粗資本ストックベース）は約 80 兆円を超え、その適正な維持と効率的な機能発揮、すなわち「持続的な経営」を目指した「経営戦略の策定」は、下水道管理者にとっては、喫緊の課題となっています。

では、私たちが何気なく使っている「経営戦略」とは、いったい何なのでしょうか。

経営戦略は、「不確実性の高い事業環境において、事業体が目的（継続して事業を営む、成長する、収益を獲得・拡大する等）を達成するために必要となる打ち手（手段より上位の概念）」と言われています。

この 50 年の経営戦略の流れは、1960 年代に始まったポジショニング派が 80 年代までは圧倒的で、それ以降はケイパビリティ派が優勢となりました。

ポジショニング論はマイケル・ポーターが、「外部環境が重要であり、儲かる市場で儲かる立場を先に占めれば勝てる」と主張した考えです。一方、ケイパビリティ論はジェイ・バーニーが「企業の内部環境が重要であり、自社の強みを生かして戦えば勝てる」と主張した考えです。

21 世紀に入ると、経済、経営環境の変化や技術革新のスピードは劇的に上がり、新たにアダプティブ戦略という「試行錯誤を行い、その結果をもってポジショニングかケイパビリティで戦うか決める」手法も出現し、まさに百花繚乱状態です。

では、下水道事業の世界では、どのような企業戦略が必要なのでしょうか。

外部環境で考えると、施設建設の時代には競合汚水処理施設との棲み分けという競争関係はありましたが、経営の時代に入ると、独占企業としての位置付けが明確になりました。また、外部環境は、人口減少による顧客の減少、自治体の財政悪化など緩慢な変化となります。このため、むしろ内部環境である企業体の強みを生かす経営戦略を取ることが市場に適していると言えます。したがって、事業体の強み、特徴等を洗い出すことが重要となります。具体的な施策としては、処理水、汚泥、空間等を利用したサービス向上・収入増加、保有する技術・ノウハウ、その他資源の国内外への展開による収益などがあります。一方で、個別事業体の経費縮減は当然として、近隣自治体での広域化、包括化、多機能化などによるスケールメリットの創出も重要と言えます。

国においても、平成 26 年度に「新下水道ビジョン」が報告され、現在、社会資本整備審議会においても下水道小委員会が設置され、新たな制度が検討されています。このように、下水道事業すなわちマーケットの方向性が大きく変わろうとしています。これらを受け、JS 研修ではこの新たな動きを迅速、的確に捉え、アセットマネジメントや経営の研修を実施しています。最後に、JS 研修参加の機会を捉え、将来のあなたの街の下水道経営戦略をじっくり考えることを、ご提案して稿を閉じさせて頂きます。

参考文献：経営戦略全史　三谷宏治　Discover21 社

就任のご挨拶

今こそ JS 研修の活用を！

研修センター所長
花輪　健二

皆さま、はじめまして。平成 26 年度、研修センター所長に就任しました花輪です。どうぞ、よろしくお願いいたします。

さて、今、下水道事業は、新たなステージに直面しています。

地方公共団体では、これまでに建設した下水道施設について、今後ともその機能を維持するため、大規模な施設の更新を行っていかなければなりません。また、施設の管理の担い手となる下水道担当職員は、下水道に習熟した団塊世代が退職し、後任となる若手職員の育成が急務となっています。しかし、人員削減等により組織の職員数が減少する中、現場での技術の継承は、次第に難しくなってきています。さらに、財政的な制約の中、施設の管理を効率的に行っていく必要があります。

このように、かつてない厳しい状況に直面し、それを着実に乗り切っていくために最も重要となるもの、無くてはならないものは、人材の確保、育成です。

下水道の経営を巡る状況を的確に把握し、今後の需要を見据え、問題解決に向け、現場で実践していく人材の育成が急務となっています。新たな人材の育成を行わなければ、下水道の継続した事業管理はできません。

下水道の事業管理には、絶対的な処方箋はなく、各地方公共団体が抱えている個々の問題に関し、試行錯誤しながら対応していくこととなります。

しかし、下水道を巡る様々な問題を分析し、ゴールを設定して、成果を得るべく必要な人材を育てていくことこそが、解決につながるのではないでしょうか。下水道経営をサステイナブルなものとするため、目的を明確にして人材育成を行っていくことが、今まで以上に重要となっています。スタートは、人材育成です。

JS 研修は、下水道を専門に、ニーズに応じた研修を、タイムリーに実施し、皆様のお役に立てるよう、幅広い研修を実施しております。また、それぞれの研修は、エキスパートと呼ぶにふさわしい講師陣が担当いたします。

今こそ、明日の下水道を担う人材育成の一環として、JS 研修をぜひお役立てください。

研修派遣団体のこえ

「熊本市の下水道技術者育成と事業団研修」

熊本市　上下水道局　計画調整課　課長補佐
岡本　吉弘

熊本市上下水道局における職員研修については、平成24年３月に策定した「熊本市上下水道事業経営基本計画」の中で、基本方針「安定した事業経営」を実現するための基本施策「執行体制の整備と人材の育成」に係る主な取組み「人材の育成（研修の充実、技術の継承など）」として位置付けています。

具体的には、上下水道事業の安定した事業運営を目指し、業務を効率的かつ確実に遂行できる職員の育成を図るため、上下水道局が求める職員像を次の３つに整理しました。１熊本市職員としての職員像、２公営企業職員としての職員像、３上下水道事業職員としての職員像です。特に３上下水道事業職員としての職員像は、本市の水道事業、工業用水道事業及び下水道事業を確実に推進するスペシャリストを育成することが重要であると考えました。

そのような中、下水道技術者育成の課題としては、職員の高齢化が進み、熟練職員の大量退職に伴う技術の継承をどのように行うのか。また、ジョブローテーションにより新たに下水道事業に関わる職員への教育をどのように行うのか。などがあげられます。私が初めて下水道事業に携わった二十数年前の仕事と言えば、主に「青焼きに図面折り」それと、先輩職員の「設計書の検算」を行う程度でした。その後、長い年月をかけて下水道技術者として育てていただきました。

しかし、近年は、職員数は減り、業務は複雑になり、スピードが要求され即戦力としての人材が求められていますが、一朝一夕で下水道技術者のスペシャリストが育つことは困難であります。そこで、本市は、短期間で着実に成果が上がる日本下水道事業団の研修へ毎年多くの職員が参加しています。下水道事業団の研修内容は、６コースに分かれ、初級、中級、特別、指定講習があり、事務、土木、建築、機械、電気、化学等が受講できる広範囲な研修となっています。また、研修期間も数日から数週間とコースによって違いますが、各コースとも“戸田”に宿泊しての研修となります。この完全寮生活こそが、下水道事業団研修の一番のポイントだと感じております。日本全国から下水道に関する職員が集まり、24時間、下水道に関して論議する。疑問点や分からない点は、日本の下水道を支えている事業団の先生や、自治体の経験豊富な講師からアドバイスをいただける。このような最高の環境で勉強ができる下水道事業団研修こそが人材育成の最短コースだと確信しております。それと併せて、人脈の構築を行うことができるのも事業団研修の魅力です。寝食を共にし、時間を惜しみなく色々な話しをして交友を深める。なんと素晴らしい研修でしょう。また､私も９回目となる研修に参加したくなりました。(笑)

このように人脈の構築を行った結果、熊本県内の事業団研修出身者は、毎年、渡邊先生をお迎えし盛大な事業団研修同窓会を開催しているところです。

最後になりますが、平成26年度から事業団研修の受講料が大幅に改定となっていますが、自治体の下水道技術者の人材育成には、この事業団研修は無くてはならない研修施設だと思います。人が育ってからこそ、良い物ができると信じています。今後も事業団研修については、時代に応じたカリキュラムを設けていただき、研修生が７万人、８万人と増え、日本の下水道事業に携わる人材育成に寄与されることを切にお願い申し上げます。

教員 OB のこえ

研修教員としての思い出と研修を受講される方へのメッセージ

元尼崎市下水道部長
渡邉　克宏
（元　研修部助教授）

1　着任当事の研修部

私が尼崎市から日本下水道事業団試験研修本部研修部（現研修センターの前身）に着任したのは、昭和 50 年８月１日です。折りしも下水道事業センターから日本下水道事業団に改組され、研修本館ができ、研修部も寺小屋時代から脱皮した年でした。

当時は、教材も少なく厚生棟や談話室、浴室もない、しかも試験部と同居など、研修生の受け入れ環境としては現況とは格段の差がありました。

職員は事務員、演習の先生１名以外、全て派遣職員で構成され、研修部長初め、コース担当８名の内５名が東京都から出向されているなど、東京都が研修部の基盤となっていました。関西からは私が第一号でした。着任早々貴方の専門は何ですかと訪ねられ、何でもやらざるを得なかった地方出身の私には、一瞬戸惑を感じながら管渠ですと返答したことを覚えています。

当時は、全国の下水道普及率も 21％と低く、これから下水道事業に着手するという都市が多い時代で、下水道技術者も先進都市に集中し、地方都市、特に町村では、技術者不足の傾向が顕著で、研修部に対する期待も非常に大きいものがありました。それゆえに、日本の下水道技術者を育む研修業務には、やりがい、夢とロマンを感じました。

研修では、「研修後のケアを大事にすると共に研修生間の交流を深めることによって波及的に技術力の向上を図る」いわゆる『みずのわ精神』に重点を置いていました。

2　在職期間の３年間

最初の教授会でテキストの充実を図ることになり、各先生方に分担されました。テキストを書いたことのない私には、精神的負担を感じながら、「やる気になれば出来る」と自分に言い聞かせて悪戦苦闘の末、責任を果たしました。このことは私にとって今日の糧となった大変貴重な体験でした。

在任の間に、管渠コースを主体に、14 のコース（研修生 332 人）を担当しました。

技術職員がいないため、技術職を担っている方や管理職として責任のある立場の方など、やる気のある責任感の強い前向きの研修生が多かったです。中には、日常業務の諸課題を持ち込んでいる研修生もいました。

「みずのわ精神」の基に、研修生の期待に答えるべく、夜遅くまで研修生の部屋回りをして（時にはアルコールと言う潤滑油を注ぎながら）、受講生とざっくばらんに語らい、泥臭く意見交換をしたものです。

研修終了時にはテストを行って採点し、マル優の表示をして上司に送るのですが、この配慮で色々と苦労したこと、研修生の集まりが悪い出身県を対象に、電話戦術で研修生の一本釣りをしたこと、事業認可の下見で建設省公共下水道課に同行したこと、研修生の皆さんと西川口での飲ミュニケイションで、支払い不足となり私の名刺で処理をしたことなどが思い出されます。

また、研修終了者からは現場の生の声として、「推進工法でガソリンスタンドの前に来たら、ガソリン臭の濃度が高まっている」続行するべきか否か、「管きょ施工区間で腐食土が発生した」如何なる工法で対処したらよいか教えて欲しいなどの相談も寄せられ、その都度、真剣に具体的な対処策を検討し提示したものです。

3　研修部退職後

昭和53年に尼崎市に帰りましたが、研修生からの相談事（私の技術の糧）は５～６年程続きましたが親身になって応対させてもらいました。

尼崎市を定年退職後は、JS大阪支社に７年間勤務しました。研修で担当した職員も課長職になられている方が多く、温かみのあるご支援とご協力を得ながら業務に従事することが出来ましたことはありがたく思っております。

JS退職後は下水道アドバイザーとしての業務依頼も多くなり、これまで17府県に出向いております。一昨年は35会場､昨年は14会場で講演しました。時には､担当した研修生がわざわざ会場に来てくれて、歓談を交わすこともあります。また、５年前からJS研修センターから講師依頼を受け、今年度は３回、戸田の地に足を運んでいます。

研修生に接すると、かつての思い出が蘇り、講師というよりもクラブ活動での先輩･後輩の気持ちになり、「研修生との心の通い」を感じられるような雰囲気で楽しく講義をしています。研修生の気質も下水道の変遷と相まって「積極性のある攻めの気質」から「守備に徹した守りの気質」へと変化している傾向が見受けられます。下水道の戦国時代を生き抜いてきた私には積極性の点で少し物足りなさを感じます。

また、平成24年には事業団設立40周年記念に当たり、外部功労者として受賞し感謝状をいただきました。下水道歴45年、今振り返って見ると研修部で蓄積した貯金（技術・人脈等）に研修生を介して利息が付き、この蓄財のお陰で私の下水道人生が未だに維持されていることを思うと、今日までお世話になった多くの方々に心から深く感謝を申し上げております。

4　研修生へのメッセージ

下水道はこれまで浸水の防除に始まり、生活環境の改善、水質汚濁防止、そして、最近では、処理水･汚泥の有価物としての再利用（汚泥からガスを精製してバスの燃料や都市ガスとして利用している都市もある）等、時代の要請に応えて変貌してきました。下水道はまるで生き物です。

これからも昨今における地球環境の急変（特にゲリラ豪雨の状況等）を考えるとまだまだ活躍の場が広がって行く施設です。

一方、高普及率の現状を鑑みると建設段階でのツケや利用者へのソフト面の対応不足等から経営に関わる課題（不明水等）もあります。下水道を生み、育て、見守ると言うことは、わが子を育てるが如く、「愛情を持った取組み」が必要不可欠です。

そのためには大変な苦労が伴います。資金力、利用者の理解と協力（下水道の正しい利用と使用料など)、そして、担当者の技術力、誠意と熱意、如何なることにも屈しない強靭な精神力、粘り強い交渉力等が必要です。時には名医の役割、下水道の病める場所を早期に発見して早期に適切な処置をする。また、下水道工学の精神、即ち「技術を駆使して最低の費用で最大の効果をはかる」も忘れてはなりません。責任も重大ですが下水道はその愛情に必ずや応えてくれます。

どうか我が町に「自慢の出来る下水道」､「住民の宝として愛される下水道」を構築し、この延命を図れるよう誠心誠意頑張ってもらいたいと願っています。

外部功労者表彰式にて（最前列右から２人目が筆者）

研修センターOBとしての思い出と近況報告

東京都下水道局計画調整部技術開発課　積算システム係長
高橋　淳
（元 研修センター准教授）

私が研修センターに赴任したのは、平成18年度から平成20年度の３年間になります。

折りしも平成20年１月に50,000人達成の節目に立会わせていただき、記念行事が国土交通省下水道企画課長、戸田市長をはじめ、OB等研修関係者の出席のもと盛大に執り行われたことが思い出されます。平成25年には65,000人も達成されたと聞き、このように順調に実績を積上げられていることは、皆様の努力の賜物だと思います。

私の担当は、准教授として管渠の設計、維持管理でしたが、赴任当時は、研修生が２～３週間の研修期間を終え、楽しく帰ることが出来るのか不安でいっぱいでした。研修所で講義時間以外は、研修所で寝泊まりし、門限もある中で、研修生がいかに楽しく過ごせるかが不安でした。

そこで、昼間は、准教授として講義や他の講師の講義資料の整理しておりますが、講義以外は、旅行社のコーディネイターであり添乗員であると思って研修を行っておりました。

一つの研修の始まりは、研修の顔写真付きの申込み用紙がそろった段階から始まります。各々の研修生の年齢や出身地から、将来も楽しくお付合いが出来ることを祈念しながら、部屋割りや配席を行いました。研修の終わりに、研修生どうしが和気あいあいとして、お別れコンパを行っているのを見ると、大変嬉しく思いました。

思い出の一つに、体育の時間に私自身が転んで鎖骨を折ってしまったことがありました。一日も休まなかったのですが、研修生の皆様には、資料の配布等迷惑をかけたことを申し訳なく思っております。研修の終わりに幹事さんより「先生には、大変骨を折っていただき、ありがとうございました。」と言われ、嬉しいやら恥ずかしやらの思いでした。

また、管渠関係のテキストの改定を大幅におこなったことが思い出されます。各テキストごとに近隣の自治体に依頼し、打合せを重ねながら改定を行いました。このことを通じ、近隣の自治体の皆様と知合いになれ、私の大事な財産となっております。

最も苦労したことは、４日間と短いですが、新しい研修を立上げたことです。テキスト作成から講義までほとんど私一人で行いました。一番最初の研修である程度、手ごたえがあったことが、嬉しく思いました。また、この研修の短いバージョンと、木下勲先生と合同で地方研修に行ったこともいい思い出です。

研修に赴任している３年間、渡邊良彦先生からディスカッション等の講師で来られている自治体の課長さんを紹介していただき、東京都にいたら絶対に会えない出会いの場を提供していただきました。大変感謝しております。

東京都に戻りましてからも、何度か講師として伺いましたが、講義室を見ると懐かしく思い出されます。

今も「関東みずのわ会」の集いに参加させていただき、研修関係者のみならず幅広い方々との交流を深めております。

私も、今年３月末日で退職をいたし、第二の人生を皆さんの近くで歩む予定ですので、お会い致した折にはお声掛けいただきますようお願いを申し上げまして、結びとさせていただきます。

今後とも研修センターの益々の発展を祈念いたします。

同窓会ニュース

「宮山会」と私のつながり、そして新たな「わ」

山形市環境部廃棄物施設課施設整備係長
阿部　真二

本寄稿についての打診は、平成 26 年９月の「宮山会」（山形県西川町志津温泉にて）の宴席にて、会代表の事業団研修センターの渡邊良彦先生から頂戴したしだいです。私自身、事業団研修の受講より 14 年ほど、また下水道事業から離れて７年ほど経過しており、大変怒られる話ですが、「研修みずのわ」を「熟読？」させていただいたのは、今回がほぼ初めて、というのが正直なところでした（すみませんでした）。貴誌にはこれまで、宮山会の諸先輩が多数寄稿しており、読者の皆様には、会の生い立ち、並びに方々の逸話等々が、多少なりとも伝わっているのではないかと、勝手ながら考えております。

さて､その「宮山会つながり」を紹介させていただきます。現在私は､会の山形側連絡係を仰せつかっておりますが、元々は会の歴史の半分にも満たない新参者でして、当初は、会の生い立ち、あるいは渡邊先生が山形出身であることさえ知らずに（だれからも教えられずに)、何だかわからないまま参加し始めました。最初は、都合がつくところで参加していたのが、いつのまにか気がつけば・・・。

今思い出せば、

① 14 年ほど前、浄化センター勤務時に事業団研修を受講することになり、当時の上司の山本所長から、「渡邊先生に挨拶してくるように」と指導を受ける。

②事業団研修時に、渡邊先生、事業団の青木様、方々からごちそうになる。

③山本所長から「会に参加してみないか」と指導を受け、以降は時折参加していた。

④山形側の企画・連絡等を行っていた先輩方（山本様、米沢の石山様）に自らお願いし、連絡係を承継させていただく。

⑤東日本大震災後、岩手県の長沼様のご尽力により花巻で開催。会の翌日、震災で亡くなられた陸前高田の吉田様宅を弔問。

⑥平成 24 年に初めての任務（私の居住地の天童にて開催)。

以上のような私なりの経緯たどりながら、皆勤で参加させていただいている昨今です。

諸先輩の築かれた長い歴史、また私のような短い経緯もありながら、一方、会の高齢化は着実に進んでおりました。そのような状況のなか、渡邊先生のカリスマにより、昨年度からは松島町より、今年度は須賀川市より（職場の行事よりも宮山会を優先され)､新たな参加をいただきました。加えて､郡山市･須賀川市からは多数の参加希望もあり、関東（ほか多数地域)、宮城、山形のこれまでの三極に、次年度以降は、福島という新たな「わ」が広がろうとしております。

事業団研修からスタートした「つながり」を大切にするとともに、最後ではありますが、下水道事業団、並びに皆様の「わ」の発展をご祈念申し上げ、結びとさせていただきます。

（平成 26 年９月　宮山会会合時のスナップ）

「福岡みずのわ会」の活動報告

福岡市　道路下水道局　総務部　下水道経営企画課長
有働　健一郎

全国の「みずのわ」会員の皆様、こんにちは。私は「福岡みずのわ会」事務局を仰せ付かっております福岡市道路下水道局の有働と申します。今回、渡邊先生から「福岡みずのわ会」についてご紹介頂きたいとの突然の原稿執筆の依頼を受け寄稿しています。

当初、私は日本下水道事業団研修センター（以後「研修センター」という。）での受講経験が無いことから、私が執筆していいものかかなり迷いましたが、公私共に尊敬する渡邊先生からのご依頼であるとともに、「福岡みずのわ会」を全国の皆様に紹介出来る絶好の機会と考えましたため、大変僭越でありますが執筆をお引き受けしたところです。

まず「福岡みずのわ会」の設立ですが、遡ること 33 年前の昭和 57 年、福岡市の諫山和仁財政局理事（当時、係員）が、研修センターで受講する際に、大学の先輩であり、当時、福岡市から日本下水道事業団東京支社に出向し、研修センターで測量の講師をしていた古賀文博氏（H25 年他界）から、「おい諫山、研修センターに行ったら必ず渡邊先生に挨拶しろよ。」との一声に事を発し、渡邊先生と出会ったことからはじまります。

それ以降、渡邊先生が福岡市にお越しの際には、この 3 人で先生の歓迎会を開催してきましたが、先生を慕う門下生が増えるにつれ、約 15 年前から徐々に人数が増えていきました。そして約 10 年前からは、福岡県の堀修一氏のもと福岡県でも行われていた渡邊先生歓迎会と合同で開催するようになり、土木職、衛生管理職など職種に関係なく、また管理職から 20 代の若手職員まで幅広く参加するようになっていきました。現在、この会は、毎年 3 月中旬に開催しており、昨年は 19 名の有志が集まり、先生を囲む懇親会に留まらず貴重な意見交換の場として盛り上がったところです。

また、研修センターへの派遣については、ベテラン職員の大量退職等に伴い長年培ってきた技術・経験・ノウハウの若手職員への継承が課題となっていることを背景に、自ら考えチャレンジし、迅速かつ的確に行動できる職員を育成することを目標に策定した「福岡市道路下水道局人材育成プラン」に基づき実施しています。平成 26 年度は 15 名、過去 3 ヶ年では合計約 39 名の職員を研修に参加させており、受講した職員からは、知識・経験豊富な講師陣をはじめ下水道事業団の皆様の万全なサポートのもと業務の基本や応用が体系的にしっかり学べる、集団生活や学習を通じて強い絆で結ばれた全国の仲間とのネットワークが構築できるといった感想をよく聞くとともに、実際に受講した職員は各所属でリーダーとして幅広く活躍しています。引き続きできる限り多くの職員を研修センターに派遣し、即戦力となる人材を育成していくとともに、より一層「福岡みずのわ会」を盛り上げていきたいと考えています。

事務局としましては、福岡市の古賀氏や諫山氏、福岡県の堀氏をはじめ諸先輩の尽力により永く引き継がれてきたこの渡邊先生を囲む「福岡みずのわ会」を世代や時代を超え、しっかりと継続していきたいと思っています。

最後に渡邊先生をはじめ日本下水道事業団研修センターの皆様、並びに全国の「みずのわ」会員の皆様の益々のご健勝とご活躍をご祈念申し上げるとともに、この会の設立の礎となった古賀文博氏に感謝の意を表しつつ「福岡みずのわ会」の紹介を終わらせていただきます。

研修仲間 35 回目の集い

日本下水道事業団　近畿・中国総合事務所長
畑田　正憲

もう 35 年もたったのかと思いながら、今年８月に開催された JS 研修仲間の総会・旅行会に参加しました。

最初の出会いは、昭和 55 年７月７日から７月 26 日まで３週間にわたって開催された「昭和 55 年度工事監督管理・工事管理コース（第２回)」でした。

私は JS 入社３年目で研修生 28 名中の最年少として参加しました。研修コース受講期間中を４人１部屋の狭い空間で過ごしながら、ともに食事し風呂に入り毎夜の飲み会などを通じてそれぞれの出身地や職場のことを話すうちに、最初のぎごちない雰囲気は消え、やがて運動の合宿仲間に近い親近感が生まれてきたのを思い出します。

この研修の幹事は、気力と体力、酒力（？）にも優れ、研修仲間をまとめる適任者で所沢市から参加された大工原貞夫さん､副幹事も幹事に負けず劣らず何事も率先して行動される宇都宮市の篠崎孝さん、研修リーダー、サブリーダーは、冷静沈着な紳士で東京都から出向されていた戸辺貞次郎と土屋弘さんでした。

（研修当時　受講終了式）

研修後半の施設見学会では、研修の趣旨から少し外れましたが、沖縄から参加した二人の大城さんのたっての希望をかなえて日光方面で企画していただきました。当時の研修企画課の皆さんにはご迷惑をおかけしました。

（研修当時　日光にて）

やがて、三週間が経過し研修終了の日が近づくにつれ、これでお別れかと思うと多くの方の胸の中には、「また会おう」そして「一杯やろう」という気持ちが生まれてきていたはずです。

研修一年後、大工原会長、篠崎副会長から二人の大城さんに声をかけ、沖縄県で第１回目の再会を果たしました。なんとその後は、毎年持ち回りで企画を立て、今年８月には 34 回目（第 24 回は中止）の総会・旅行会を開催することができました。

今回の幹事は広島市の塩出興二さんが担当し、新潟市の高橋進さん、大工原さん、篠崎さんと研修リーダーの戸辺さんに私の６名が参加しました。８月 28 日に三重県伊勢市､翌 29 日は和歌山県勝浦町、さらに高野山まで足を伸ばし、３泊４日の充実した集まりを持つことができました。

（第 34 回総会・旅行会 和歌山にて：左端筆者）

（第 34 回　ホテル浦島で総会）

当時、46 才元気一杯の大工原会長も 81 才となり１年前の病気を克服されたものの、浴びるほど飲んでいたお酒を止め、杖を突きながらの参加となりましたが、話力と気力は衰え知らず。来年、篠崎さんの地元宇都宮市での再会を誓って無事に終了しました。

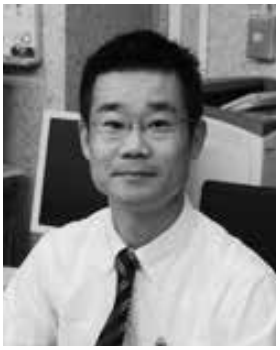
昭和55年度監督管理・工事管理コース研修　総会・旅行会　　H26.8.31現在

回数	期間	開催地	参加者	備考
第　1　回	S56.7.16 － 19	沖縄県那覇市、糸満市	8 名	
第　2　回	S57.8.6 － 8	宮城県仙台市、多賀城市	11 名	内家族1名、教授2名
第　3　回	S58.8.5 － 7	新潟県新潟市、佐渡	10 名	内教授1名
第　4　回	S59.9.14 － 16	広島県広島市、瀬戸内	8 名	
第　5　回	S60.8.2 － 4	茨城県筑波学園都市	11 名	内家族1名、教授1名
第　6　回	S61.8.1 － 3	静岡県熱海市、伊豆半島	9 名	内家族1名
第　7　回	S62.8.7 － 9	徳島県徳島市、鳴門市	7 名	内家族2名
第　8　回	S63.8.5 － 7	東京都内、埼玉県秩父市	9 名	内教授3名
第　9　回	H1.7.22 － 24	福島県いわき市	6 名	
第　10　回	H2.8.3 － 5	栃木県日光市、鬼怒川	6 名	
第　11　回	H3.7.19 － 21	長崎県、熊本県、福岡県	6 名	
第　12　回	H4.7.24 － 26	山形県蔵王	7 名	内家族1名
第　13　回	H5.7.23 － 25	新潟県、富山県、岐阜県	7 名	内教授1名
第　14　回	H6.7.22 － 24	京都府	5 名	
第　15　回	H7.8.5 － 7	栃木県、群馬県	6 名	内教授1名
第　16　回	H8.7.27 － 29	福島県	7 名	内教授1名
第　17　回	H9.7.26 － 28	新潟県	10 名	内教授1名
第　18　回	H10.7.17 － 20	鹿児島県	5 名	
第　19　回	H11.7.17 － 19	千葉県（南房総）	8 名	
第　20　回	H12.7.20 － 23	四国（愛媛県、高知県）	6 名	
第　21　回	H13.7.20 － 22	宮城県仙台市、多賀城市	7 名	
第　22　回	H14.7.19 － 21	長野県佐久臼田、上田市	8 名	
第　23　回	H15.7.25 － 27	新潟県村上氏、粟島	8 名	
第　24　回	H16.7.17 － 19	秋田県	－ 名	中止
第　25　回	H17.7.29 － 19	東京～横浜～城ヶ島	5 名	
第　26　回	H18.7.14 － 17	大分県～熊本県～宮崎県	6 名	
第　27　回	H19.7.14 － 16	栃木県	7 名	
第　28　回	H20.7.18 － 20	岩手県～宮城県	8 名	
第　29　回	H21.7.17 － 19	茨城県土浦市、水戸市	7 名	
第　30　回	H22.7.9 － 11	山口県山口～萩市、津和野町	7 名	
第　31　回	H23.9.3 － 5	新潟県長岡市、十日町市	7 名	
第　32　回	H24.8.17 － 19	新潟県、石川県	7 名	
第　33　回	H25.8.23 － 25	青森県	7 名	
第　34　回	H26.8.28 － 31	和歌山県、三重県	6 名	内教授1名
第　35　回		栃木県（予定）		
		計	242	

研修生のこえ

下水道ヒューマンネット

佐世保市水道局事業部下水道事業課
秋葉　潔成



●振り返れば 16 年

私が事業団研修を受講したのは、平成 10 年７月にわが町の公共下水道がスタートしたことがきっかけでした。当時私が勤務していた江迎町(6.6 千人)は、過疎市町村向け「都道府県代行制度」を活用し、県が処理場（OD 法１池 1,200㎥/日)、ポンプ場（２箇所)、幹線管渠（3.7km）を代行整備し、町が面整備（159ha）を行う方法で事業着手しました。それと同時に私は長崎県県北振興局建設部へ派遣され、すぐに管きょＩを受講した次第ですが、当時わが国の下水道建設投資額は現在の約２倍（３兆円強）という時代でしたので、戸田市の研修センターには全国各地から多くの研修生が集い、昼も夜も大変賑やかでした。食堂はほぼ満席、大浴場は芋洗い状態、談話室や体育室も人でいっぱい、まるで部活の合宿のような雰囲気に私はすぐに研修センターが好きになりました。汗だくになって下笹目の街を測量して回ったこと、慣れない分析機器を見よう見真似で恐る恐る操作したこと、研修合間のソフトボールやボーリングで友好を深めたこと、夜の談話中に 9.11 テロの瞬間をテレビで見てみんなが言葉を失ったこと、いろんな思い出が浮かんできます。以降、これまでに計９回の研修参加と３回の臨時講師を経験することができ、たくさんの人と出会う機会に恵まれたことが私の大きな財産となっています。下水道を取り巻く諸課題がより深刻化・先鋭化する現在において、事業団研修は課題解決の場として今後ますます重要になるものと思います。

●近況

平成７年から 15 年間私が勤めた江迎町は、平成 22 年３月に特例市の佐世保市と合併し、１市６町 26 万人のまちとして新しく生まれ変わりました。合併後は公営企業の一員として、沈砂池ポンプ棟の建設、要望地の現地調査、事業損失補償、受益者負担金などの業務に携わっています。そんな中、供用開始前からずっとわが町のことを気にかけ、たびたび制度設計の相談に乗っていただいた加藤壮一先生から、大変有り難いことに経営コース（受益者負担金）で臨時講師をしてほしいと声をかけていただき、平成 24 年 12 月、水質管理Ｉの受講から９年ぶりに研修センターを訪問することができました。その後 25 年１月には接続・水洗化促進と情報公開、26 年 12 月には受益者負担金に今度は上司とともにご指名をいただき、ミッションとして与えられた本市の事例紹介にとどまらず、全国の研修生の皆さまとホットな情報交換ができたことが大変有意義でありました。「インターネットも重要だけど、ヒューマンネットはもっと大切」という加藤先生のことばがずっと胸に響いております。

加藤先生に招かれた受益者負担金（H26）にて

H26 課員旅行にて（熊本城）

●今後の夢

私はこれまで、さまざま技術・ノウハウの集合体である下水道事業に16年間携わることができましたので、いつか機会を見つけ、その経験を生かせるような市域を超えた支援・ボランティア活動などに参加したい夢を持っています。例えばブータンという72万人の小国が中国とインドの間で先進国からの支援を求めていますが、国民総生産（GNP）ではなく国民総幸福量（GNH）を指標として国づくりをしていることで世界から注目を集めています。「足るを知る」など、今の私たちのまちづくりに生かせるようなヒントがあるように思えてなりませんので、ぜひ実現したい活動の一つです。

普及率が56.5%（H25末）とまだまだ整備途上にある本市においては、これからも日本下水道事業団のバラエティ豊かで時代に即した研修に参加し、恩師の渡邊先生、加藤先生、栗田先生をはじめ、魅力あふれる先生方から引き続きご指導を賜りながら、研修生の皆さまとの交流を深め、下水道ヒューマンネットをさらに広げていきたいと思います。

＜参考＞

●受講歴

管きょⅠ（H10)、処理場Ⅰ（H10)、処理場設備（機械･H11)、処理場設備（電気･H11)、工事管理Ⅱ（H12)、供用開始の準備と手続き（H14)、処理場管理Ⅰ（H15)、水質管理Ⅰ（H15)、滞納対策（H19地方研修）

●臨時講師歴

受益者負担金（H24)、接続・水洗化促進と情報公開（H24)、受益者負担金（H26）

研修をふりかえって

茨城県古河市上下水道部下水道課
鈴木　学

私が勤務する古河市は茨城県の最西端に位置し西は埼玉県、北は栃木県と隣接しており、人口約 14,5000 人、面積約 12,300ha を有しています。関東平野のほぼ中央に位置し「関東ド・マンナカ」を宣言する一方で、古くからの城下町としての風情を残しながらも利根川、渡良瀬川に囲まれた水と緑の豊かな自然とともに発展してきた都市です。下水道の整備については都市基盤整備の一環として昭和 48 年から事業着手し、認可区域整備率は約 80%となっております。

さて、本市からも毎年のように下水道事業団研修へ様々なコースで参加をさせていただいておりますが、私も平成 25 年に管きょ設計Ｉコースを受講させていただきました。研修では下水道整備の計画、現地測量を踏まえたうえで、設計・積算に至るまで下水道に携わる職員として一通りの流れを学びました。管きょ設計Ｉコースでは土木分野についての経験がなく下水道について無知であった自分にとっても、担当して下さいました粕谷先生をはじめ、経験豊富な近隣自治体職員の講師の方々にも丁寧にご指導いただき、また同じコースを受講する仲間にも支えられ非常に有意義な研修期間を過ごすことができました。

また当コースは他の自治体から参加されている方も大変多く、全国各地から集まった仲間と日頃いだいている悩みや抱負を語りあったのも良い思い出です。また、この事業団研修では講義による知識や技術の習得だけではなく、他の自治体の方々と仕事の話はもちろん様々な情報交換ができること、つながりを作れることが最大の強みだと思います。研修を修了した今でも同窓生のみなさんとは大切に交流させていただく機会もあり、仕事で抱える問題などを共有させていただいております。そんな皆さんが管きょ設計Ｉコースで培った知識を基にそれぞれの自治体でご活躍されていることを考えると私も日々精進しなくてはといい刺激になっております。

当市では、まだまだ公共下水道の未整備エリアが存在し全体的な普及向上のため業務に努めているところですが、研修で学んだ知識はもちろん下水道に携わる職員として市民の方々により身近に感じていただけるよう、日々の業務を通して恩返ししていきたいと考えております。

最後になりましたが、下水道事業団研修センターのご発展と下水道事業に携わる皆様のますますのご活躍を期待して、結びの言葉とさせていただきます。

事業団研修を受講して

さいたま市建設局北部建設事務所下水道建設１課
小林　知弘

この度「みずのわ」への執筆依頼を頂き、誠にありがとうございます。

私は、平成22年度にさいたま市へ入庁し、現在の下水道建設１課配属となり、下水道事業の右も左もわからないまま早速に「管きょ設計Ⅰ」へ参加しました。その後平成24年度「管更正の設計と施工管理」、平成25年度「設計照査（会計検査）」と３回の研修を受講させて頂きました。お蔭様で、研修により学んだことを活かしながら日々業務へ勤しんでいます。

当市の下水道事業は昭和28年に大宮駅周辺の整備よりスタートし、平成25年度末での下水道普及率は90％を超えました。今後益々の下水道の普及に努めるとともに、浸水対策や経年管の老朽対策にも取り組んでいます。

当課は公共下水道の設計業務を担当しています。入庁当初は新設事業の設計がメインでしたが、近年は老朽対策事業の設計の占める割合も増えてきました。このような状況を受け、係内で老朽対策事業がメインの担当、新設事業がメインの担当に分かれて業務を進めています。私自身は老朽対策事業を担当していて、平成24年度に受講した「管更正の設計と施工管理」の研修資料等が活きてくるという訳です。

「管更正の設計と施工管理」の研修では、改築・修繕に関する国の取り組みから、管更正工法の選定や積算、施工管理まで、業務の一連の流れと専門的な知識を教わりました。

私は、日常業務では「設計」を担当しているため、計画やその後の工事・施工管理についてはどうも疎い部分があります。研修では、業務の一連の流れを学ぶことができ、事業に対する理解を一層深めることができました。さらに、講師の方々が、実際に設計に携わっている自治体の職員や先進的な技術を開発した関係協会の方であるため、より近い目線で、体験等を交えた講義を受講することができました。ここから得られるヒントは、実際の業務を進める上で大変参考になります。

また、全国の自治体職員と交流できることも、この研修の醍醐味であると思います。毎日夕食後には談話室に研修生が集い、各自治体の下水道ネタで盛り上がっていました。ここで飛び交った情報と、ここで形成される人と人とのつながりは、知識以上の財産になると思います。

私自身、研修後のつながりがやや希薄になっていることが大変残念に思っているところですが、これから研修に参加される皆様には、知識以上の財産も得て頂けたらと願っています。

最後になりますが、幾度に渡りお世話頂いた研修センター講師の方々に感謝を申し上げるとともに、下水道事業団の益々の発展と皆様のご活躍を心より祈念致します。

研修に参加して

伊勢市上下水道部下水道施設管理課　排水設備係
中河　幸也

私が勤務する伊勢市は「お伊勢さん」で神宮ゆかりの地と知られ、平成２５年は第６２回神宮式年遷宮が斎行され、神宮参拝者数は約１４２０万人を数え、宿泊施設や飲食店が相次ぎ出店いたしました。下水道事業は平成元年に着手し、平成３３年度当初まで下水道の普及促進に努め、約５２％の普及率を目指しているところです。

日本下水道事業団の研修は平成２３年の事業場排水対策と平成２５年の接続・水洗化促進と情報公開の二つを受講しました。最初、戸田公園駅に着いてバス停がどこか探し、まわりを見ると研修のしおりと荷物を持った方々が並んでいるところへ行きました。JS に到着して案内された部屋はカーテンの仕切りがあるシンプルなものでした。そのうち研修生が集まって北海道から九州までの名刺交換会が始まりそこで緊張が解れました。研修室へ行き座席表の席へ着いたら、前列の中央でした。おみくじ凶のような気分でした。

JS の栗田先生の熱弁の中に「今回の研修は皆さんの先輩で事業場排水対策の経験が豊富な講師の方々が来られます。こんなチャンスはありません。難問など丁寧に回答してくれますよ。」と話がありました。全国から集まった研修生は講義後、先生へ質問されてご指導を受けていました。

水洗化促進は JS の加藤先生が担当された研修で下水道計画区域の考え方、水洗化の促進方法など説明がわかりやすく、研修半ばから来られた講師の方々は先生に魅了された加藤チルドレンでした。研修期間中、加藤先生は毎夜遅くまで研修生の下水道相談を受けて的確なアドバイスをしてくれました。

寮生活は二つの研修とも、夜の意見交換会や下水道相談で入浴時間を過ぎてしまって朝シャワーを浴びる生活でした。３食おいしいご飯で食べ過ぎ注意の重量オーバーになる方がちらほら居たみたいです。

私は研修を受講したタイミングがよく、特定施設・除害施設が相次いで設置され研修中の資料を確認しながら届出を審査し研修で習ったことが発揮できた瞬間でした。

毎月二回、水洗化促進業務があります。加藤先生に教えられたことを思い出し下水道の利用をしていただけるような説明を行っています。また供用開始説明会の座席配置など資料を見ながら考え、改善を行っています。

二つの研修の結果で得た成果はかなり大きかったです。何よりつながった研修生のネットワークはこれからも大切にしていきたいと思います。また、下水道展で逢いましょう。

最後になりますが、研修に携わった皆さまには感謝を申し上げるとともに、皆さまのご活躍をお祈りしています。今後もご指導よろしくお願いいたします。

お知らせ

平成 27 年度　研修実施計画について

日本下水道事業団研修センター

日本下水道事業団研修センターでは、「第一線で活躍できる人材の育成」を目標に、下水道のライフサイクルを網羅する６コースを設定し、専門的知識が修得できる各種専攻を設定しております。

平成 27 年度研修実施計画は、昨今の下水道行政の動向や平成 27 年度研修参加意向調査（アンケート）の結果を踏まえ、下記のような専攻の新設及び内容や開催方法の見直しを行うことといたしました。

また、こうしたコースの他にも下水道事業に関するタイムリーなトピックを反映した研修を臨時研修として適宜実施するとともに、事業団の主催により地方都市で開催する地方研修、地方公共団体等の要請による講師の派遣依頼等も対応していますので、ご希望がございましたら研修センター（℡ 048-421-2692）までお気軽にご相談下さい。お待ちいたしております。

１．新設専攻

コース名	専攻名	期間（日）	内　容
計画設計	『地方公共団体における起業（FIT 制度）』	2	下水道の新たな収益源となる起業の方法論
実施設計	『排水設備指導講習者育成』	4	排水設備の設置指導に携わる技術職員の養成
維持管理	『水質管理Ⅲ』	5	水処理施設運転計画の策定力を養成
	『水処理施設の管理指標の活かし方』	2	水質管理における現場力の向上
	『水質管理のトラブル対応』	2	水質管理における現場力の向上

２．内容の見直し（主なもの）

コース名	専攻名	期間（日）	変更内容
計画設計	『アセットマネジメントと下水道長寿命化計画』	5	下水道法の改正を受けたカリキュラムの見直し
経　営	『包括的民間委託と指定管理者制度』	5 ⇒ 4	包括委託、指定管理者制度のケーススタディーに重点を置いて再編
	『下水道の経営』	5 ⇒ 4	財政制度と経営課題の解説に重点を置いて再編
	『下水道使用料金』	5 ⇒ 4	料金体系設計のケーススタディーに重点を置いて再編
	『滞納対策』	5 ⇒ 4	徴収事務のケーススタディーに重点を置いて再編

平成２７年度　研修実施計画

【戸田研修】

コース	専　攻　名	官民区分	クラス	研修期間	研修回数	定員	総定員	受講料（円）	４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月
計画設計	下水道事業入門	官	初	4	1	20	20	128,200		26-29									
	下水道事業の計画（都道府県構想）	官	中	5	1	30	30	139,700									14-18		
	総合的な雨水対策	官	中	5	1	40	40	139,700				6-10							
	■ アセットマネジメントと下水道長寿命化計画	官	特	3	1	50	50	116,800							14-16				
	● 地方公共団体における起業(FIT制度)	官民	特	2	1	10	10	59,500								26-27			
	下水道事業における地震対策	官	特	4	1	15	15	128,200					4-7						
経営	■ 包括的民間委託と指定管理者制度	官	中	4	1	10	10	128,200						29-2					
	■ 下水道の経営	官	中	4	1	10	10	128,200							5-9				
	企業会計－移行の準備と手続き－	官	中	5	2	35	70	139,700		11-15				11-14					
	消費税	官	中	5	1	30	30	139,700				6-10							
	■ 下水道使用料	官	中	4	1	10	10	128,200								10-13			
	受益者負担金	官	中	5	1	20	20	139,700									14-18		
	■ 滞納対策	官	特	4	1	10	10	128,200								16-19			
	接続・水洗化促進と情報公開	官	中	5	1	10	10	139,700											1-5
実施設計	管きょ設計Ⅰ	官	初	12	4	30	120	194,700				27-7		31・11			30・11	18・29	
	管きょ設計Ⅱ	官	中（指）	17	5	25	125	222,000			10・26		19・4		14・30	25・11		13・29	
	推進工法	官	中	10	2	20	40	174,000				22・31				4・13			
	管更生の設計と施工管理	官	中	5	2	25	50	139,700			1-5		24-28						
	設計照査（会計検査）	官	中	5	1	20	20	139,700							5-9				
	管きょの液状化対策	官	特	4	1	25	25	128,200							5-9				
	● 排水設備指導講習者育成	官	特	4	1	15	15	128,200				21-24							
	処理場設計Ⅰ	官	初	4	1	15	15	128,200			9-12								
	処理場設計Ⅱ	官	中（指）	12	1	25	25	194,700							19・30				
	処理場設備の設計(機械設備)	官	中	5	1	45	45	139,700								16-20			
	処理場設備の設計(電気設備)	官	中	5	1	25	25	139,700				29・3							
	設備の長寿命化計画	官	中	3	1	20	20	116,800										20-22	
工事監督管理	工事管理Ⅱ	官	中(指)	11	1	20	20	185,500				30・10							
維持管理	管きょの維持管理	官	初	12	2	15	30	185,500						31・11			30・11		
	管きょの調査・点検	官	特	5	1	15	15	139,700											1-5
	処理場管理Ⅰ(講義編)	一部官民	初	3	2	20	40	116,800						官のみ 30-2				官・民 20-22	
	処理場管理Ⅰ(講義編＋実習編)	一部官民	初	10	2	25	50	174,000						官のみ 30・6				官・民 20・29	
	処理場管理Ⅰ(実習編)	一部官民	初	5	2	5	10	57,200						官のみ	5-9			官・民 25-29	
	処理場管理Ⅱ	一部官民	中(指)	10	2	25	50	174,000					官のみ 19・28			官・民 2・11			
	電気設備の保守管理	官民	中	3	1	15	15	116,800											17-19
	水質管理Ⅰ	官民	初	10	1	15	15	174,000							14・28				
	水質管理Ⅱ	官民	中	5	1	10	10	139,700								9-13			
	● 水質管理Ⅲ	官民	特	5	1	10	10	139,700			8-12								
	事業場排水対策	官	中	10	1	20	20	174,000						9・18					
	包括的民間委託における履行確認	官	特	2	1	20	20	59,500									17-18		
	● 水処理施設の管理指標の活かし方	官民	特	2	1	20	20	59,500		26-27									
	● 水質管理のトラブル対応	官民	特	2	1	10	10	59,500		28-29									
国際展開	下水道国際水ビジネス・国際展開	官民	特	1	1	5	5	29,800								25			

注）
1. 受講料の他に宿泊費として１泊あたり４，４００円（消費税込）が必要になります。
2. クラス欄の初・中・特は、初級クラス・中級クラス・特別クラスを、（指）は、指定講習を示します。
3. 「官」のコースは地方公共団体職員のみを対象、「官民」のコースは地方公共団体職員及び民間事業者を対象としたコースです。
（なお、「処理場管理Ⅰ」「処理場管理Ⅱ」専攻は、ともに第1回が「官のみ」、第2回が「官民」となります。）
4. 各専攻とも申込者が１０名を下回る場合には、開催しない場合がありますので予めご了承下さい。
5. 「処理場管理Ⅰ(実習編)」の受講に当たっては、事前に当該専攻の講義編を受講していることが条件となります。

● は、新設講座
■ は、リニューアル講座

研修センターのあゆみ

昭和47年	11・1	下水道事業センター発足 初代研修部長 岩崎 保久就任
昭和48年	2・6	研修部で研修開始
	5・	プレハブ校舎完成
	12・27	試験研修本館着工
昭和49年	1・16	研修会報（研修みずのわ）創刊
	12・1	第2代研修部長 丸山 速夫就任
昭和50年	3・25	試験研修本館竣工
	4・16	初代試験研修本部長 池田 一郎就任
	8・1	日本下水道事業団発足 第2代本部長 岡崎 忠郎就任
昭和51年	3・14	第1回下水道技術検定試験実施
	8・1	第3代研修部長 橋本 定雄就任
	11・21	第2回検定試験実施（以後毎年11月中旬実施）
昭和52年	2・16	第3代本部長 上田 伯雄就任
	4・1	第4代研修部長 武田 篤夫就任
昭和53年	4・1	第4代本部長 遠藤 文夫就任
	11・16	常任参与　安田　靖一就任
昭和54年	6・9	第5代研修部長 野端 利治就任
昭和55年	10・1	第5代本部長 卜部 壮一就任
昭和56年	3・31	研修修了生（延べ）7，603人となる
昭和57年	6・5	第6代研修部長 伊阪 重信就任
	11・1	事業団設立10周年を迎える
昭和58年	4・1	常任参与 藤井 秀夫就任
	8・29	研修修了生1万人達成
	11・16	第6代本部長 中村 瑞夫就任
昭和59年	4・12	試験研修本部を技術開発研修本部に名称変更する。
	4・27	第1回「研修部OB会」開催
昭和60年	1・1	第7代研修部長 真船 雍夫就任
	3・27	新厚生棟完成
昭和61年	4・25	第2回「研修部OB会」開催
	10・1	第7代本部長 苫米地 行三就任
昭和62年	3・31	研修修了生（延べ）14，311人となる
昭和63年	1・1	第8代研修部長　石川　廣就任
	4・1	第8代本部長　千葉　武就任
	4・28	第3回「研修部OB会」開催
平成元年	9・1	常任参与 村上　仁就任
平成2年	3・31	本館改修工事竣工
	6・11	第9代研修部長 亀田 泰武就任
	10・8	第4回「研修部OB会」開催
平成3年	7・16	第10代研修部長 石川 忠男就任
	7・26	研修修了生2万人達成
平成4年	4・1	第9代本部長 清野 圭造就任
	4・1	第11代研修部長 星隈 保夫就任
	11・1	事業団設立20周年を迎える
平成5年	3・26	第5回「研修OB会」開催
	7・1	常任参与 北井 克彦就任
平成6年	7・1	第10代本部長 小林　紘就任
	10・7	研修修了生2万5千人達成
平成7年	7・5	総合実習棟竣工
平成8年	4・1	第12代研修部長 竹石 和夫就任
平成9年	3・20	本館改修工事竣工
	9・29	研修修了生3万人達成
	11・1	事業団設立25周年を迎える
平成10年	3・24	研修業務報告会開催
	7・14	第11代本部長 黒沢　宥就任
	8・1	参与　内田　信一郎就任
平成11年	4・1	第13代研修部長 大嶋 吉雄就任
平成12年	6・30	研修修了生3万5千人達成
	7・3	第14代研修部長 渡部 春樹就任
平成13年	1・20	第12代本部長 中橋 芳弘就任
	4・16	参与　福智　真和就任
平成14年	4・1	第15代研修部長 篠田　孝就任
	11・1	研修修了生4万人達成 事業団設立30周年を迎える
平成15年	4・16	参与 色摩 勝司就任
	10・1	「特殊法人整理合理化計画」に基づき、日本下水道事業団が地方共同法人となる
平成16年	4・1	機構改革により「研修センター」発足 第16代研修センター所長 大嶋　篤就任
平成17年	4・1	第17代研修センター所長 成田 愛世就任
	8・1	第13代本部長 安藤　明就任
	10・21	研修生4万5千人達成
平成19年	4・1	第18代研修センター所長　髙島英二郎就任
平成20年	1・19	研修修了生5万人達成
	1・30	研修修了生5万人達成記念行事開催
平成21年	7・14	第19代研修センター所長　藤生　和也就任
平成22年	4・1	第14代本部長　村上 孝雄就任
	4・22	研修修了生5万5千人達成
	6・10	本館耐震化工事着手
	8・3	研修業務検討委員会設置
	3・11	東日本大震災
平成23年	4・1	機構改革により技術開発研修本部長を廃止し、研修・国際担当理事を設置。 初代理事　村上 孝雄就任
	4・1	国際展開コース新設
	9・21	臨時研修「地震対策」実施
平成24年	4・17	研修修了生60，000人達成
	11・1	事業団設立40周年を迎える
	11・22	臨時研修「放射能対策」実施
	3・29	本館耐震化工事終了
平成25年	4・1	第20代研修センター所長　藤本 裕之就任
	11・1	第2代研修・国際担当理事　野村 充伸就任
平成26年	4・1	第21代研修センター所長　花輪 健二就任

〈裏表紙の写真〉富岡八幡宮境内の伊能忠敬像

『大日本沿海輿地全図』を完成させたことで有名な伊能忠敬は、約 200 年前の西暦 1800 年 6 月 11 日早朝、「深川の八幡さま」として親しまれている富岡八幡宮を出発し、北海道の測量へと旅だったとあります。忠敬は、地球を球形と考えて、遠距離の江戸と蝦夷地の緯度を求め、緯度 1 度の距離を 28.2 里としています。この距離は、誤差がわずか 1000 分の 1 程度であることが後世になって確認されました。

伊能忠敬の功績は、2020 年に「我が国の測量史・地図史上における極めて高い学術的価値を有する」として、「伊能忠敬関係資料」の名称で国宝に指定されています。

撮影地：東京都江東区富岡　　撮影及び文：研修センター専任講師　長澤 不二夫

～編　集　後　記～

▼平成２６年度研修は、受講料を大幅に改定させていただいたことにより、皆様に大変なご負担をお掛けいたしましたことをお詫び申し上げます。
このような中、多くの地方公共団体において前年と同人数の研修生をご派遣いただけましたことに、スタッフ一同、心より感謝申し上げます。
▼「一朝一夕で下水道技術者のスペシャリストが育つことは困難であり、短期間で着実に成果が上がる日本下水道事業団の研修へ毎年多くの職員が参加」（熊本市　岡本様）とのご指摘に、下水道技術者の養成という私どもに課された責務を改めて認識いたしました。
▼また、「わが町に自慢のできる下水道、住民の宝として愛される下水道を構築し、誠心誠意がんばれ」（元尼崎市　渡邉様）との大先輩からのエールに、下水道を取り巻く厳しい現実に立ち向かう力を頂いた思いでございます。
▼平成２７年度が、皆様のまちにとりまして飛躍の年となりますようにご祈念いたします。引き続き日本下水道事業団研修も宜しくお願い申し上げます。(KT)

機関誌「みずのわ」第48号

平成27年2月発行　第48号

発　行／地方共同法人 日本下水道事業団 研修センター
〒335-0037 埼玉県戸田市下笹目5141
TEL：048-421-2692
FAX：048-422-3326

印　刷／株式会社 サンワ